

第9回アジア地震学会参加報告

産総研 活断層・地震研究センター 吾妻 崇

2012年9月17-20日にモンゴルのウランバートル市で開催されたアジア地震学会(ASC)第9回総会に参加しました。ASCへの参加は、前回のベトナム(ハノイ市)での開催に続いて2回目になります。モンゴルでは前世紀の間だけで4回ものM8クラスの大地震(1905年Tsetserleg地震:M8.0, 1905年Bulnai地震:M8.4, 1931年Fu-Yun地震:M8.0, 1957年Gobi-Altai地震:M8.2)が発生して長大な地表地震断層が出現したことが報告されており、かねてからぜひともこの国へ行ってみたいと思っていたのですが、今回、日本地震学会のASC渡航助成金を使わせて頂き、その願いがようやく実現しました。

今回の総会は、モンゴル政府のNEMA(National Emergency Management Agency)とMAS(Mongolian Academy of Science)が組織委員会を務めていましたが、実際の現場ではRCAG(Research Center of Astronomy and Geophysics)の方々が忙しく動き回っていたようです。全講演を併せると140件近くの発表があり、14ヶ国(モンゴル、中国、ロシア、日本、インド、台湾、フィリピン、ベトナム、タイ、韓国、イラン、ヨルダン、カザフスタン、オーストラリア)の研究者が参加しており、日本からは平原ASC会長のほか14名が参加しました。

当初の予定では私も全日程に出席する予定でしたが、予約していた便が欠航になってしまい、総会初日の9月17日に開催されたモンゴル政府機関でのオープニングセレモニーやその後の研究セッション、そして夕方に催されたレセプションには残念ながら出席できませんでした。悪いことは重なり、台風の影響のため飛行機の出発が7時間半も遅れてしまい、私がウランバートル空港に到着したのは18日の午前2時頃のことでした。事前の連絡では現地の組織委員会の方が空港へ迎えに来て下さることになっていました。しかし、さすがにこの到着時間では無理だと思っていたのですが、飛行機の到着時間が遅れることを成田空港からメールで知らせたところ、深夜にも関わらず迎えにきて下さり、おかげで何も不安な思いをせずに市内まで移動することができました。

ホテルに到着して仮眠を取った後、朝9時前に会場に向かい、セッションに参加しました。この日は午前から午後にかけて震源と予測に関するセッションに参加し、想定震源としての活断層に関する自分の研究について口頭発表を行ないました。次々に発表される各国の研究成果を聞くことができ、充実した1日でした。総会3日目の9月19日には午前中に強震動・地震ハザードとリスクに関するセッションに参加したほか、午後にポスター発表がありました。全発表が終了した後、市内ホテルで閉会のパ

パーティが開催されました。パーティの最後には、参加者を含めたダンスが始まり、とても和やかな雰囲気の中で今回の総会の閉会を迎えることができました。

さて、翌9月20日は私が最も楽しみにしていた大会巡検です。今回の巡検は、ウランバートルの西方に位置するエミールト断層とフスタイ断層を見学するものでした。かつての地震で出現した長大な地表地震断層はモンゴルの西部に位置しておりウランバートルから数百km離れているため、さすがにそれらまで行くコースではありませんでしたが、2005年以降に地震活動が活発化している地域だということで大変興味を持って参加しました。

最初の観察地点では、エミールト断層のトレンチ調査現場を訪れました。断層変位地形は明瞭でしたが、トレンチ壁面に現れている地層変形の解釈は微妙で、かなり無理をして断層活動を認定しているように感じました。同地点で実施された地中レーダー探査の結果と併せて近日中に論文が公表されるということなので、どのように解釈しているのかその詳細を確認してみたいと思います。

次に訪れたフスタイ断層は全体で長さ100km以上及ぶ大断層で、4つのセグメントに区分されています。観察地点では、この断層の北東端付近で地震計が設置された場所でした。広域に複数の地震計が配置され、アレー観測を行っているとの説明でした。その後、フスタイ断層上の地点に立ち寄る予定でしたが、通過しようとしていた軍用地で演習が始まってしまったため、残念ながらキャンセルになってしまいました。

その後、フスタイ国立公園内で食事と休憩を取り、午後は公園内に生息する野生動物を観察しました。この公園は、モンゴル内では一度絶滅した野生馬がロシアから連れて来られて保護されています。なかなか馬の姿を見ることができませんでしたが、帰るときになって近くまで馬の群れがやってきて、幸運にもその姿を間近で見ることができました。

今回の総会および巡検を通じて、モンゴルの方々の心温まる歓待と支援に大変心を打たれました。次回はフィリピンでの開催が決まりました。この国は東西両方からプレートが沈み込んでいる非常に興味深い地域です。また、フィリピンには1990年ルソン地震のときに活動したルソン断層があり、そのほかにも活動的な活断層がいくつもあります。第10回を迎える次回のASC総会にまた参加することが今から楽しみに思えてなりません。

最後になりましたが、今回のASCに渡航する機会を与えて下さいました日本地震学会に、そして完璧なホスピタリティで我々を迎えてくれたモンゴルの地震研究者の方々に厚く御礼を申し上げます。